

野村和代 学位論文審査要旨

主 査 神 崎 晋
副主査 花 木 啓 一
同 前 垣 義 弘

主論文

A study on the incidence and comorbidities of autism spectrum disorders accompanied by intellectual disabilities in Yonago city, Japan

(日本の米子市における知的障害を伴う自閉症スペクトラムの発生率と併存症についての研究)

(著者：野村和代、山口美保子、横山まどか、汐田まどか、大野耕策、前垣義弘)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. Reliability and validity of autism diagnostic interview-revised, Japanese version

(日本語版自閉症診断面接改定版の妥当性と信頼性)

(著者：土屋賢治、松本かおり、八木敦子、稲田尚子、黒田美保、井口英子、小山智典、神尾陽子、辻井正次、酒井佐枝子、毛利育子、谷池雅子、岩永竜一郎、小笠原恵、宮地泰士、中島俊思、谷伊織、大西将史、井上雅彦、野村和代、萩原拓、内山登紀夫、市川宏伸、小林秀次、宮本健、中村和彦、鈴木勝昭、森則夫、武井教使)

平成25年 Journal of Autism and Developmental Disorders 43巻 643頁～662頁

2. 発達障害児の親を対象としたPTの実態と実施者の抱える課題に関する調査

(著者：松尾理沙、野村和代、井上雅彦)

平成24年 小児の精神と神経 52巻 53頁～59頁

3. 強度行動障害の再検討その1強度行動障害特別処遇事業における対象事例の支援・経過
についての分析

(著者：野村和代、鈴木将文、井上雅彦、杉山登志郎)

平成20年 小児の精神と神経 50巻 291頁～296頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、米子市在住の知的障害を伴う自閉症スペクトラム小児を全数調査し、その発生率と併存症を検討したものである。その結果、出生1万人あたりの年間発生数は76.2人で、男女比は2.7:1であった。関連因子として、出生時の父親の高年齢と母親の高年齢、重度知的障害があげられた。併存症は30.9%に認め、周産期異常が最も多く、その他に染色体異常・先天異常、てんかん、先天性の脳の発生異常、家族性の発達障害、後天性脳障害など多彩であった。本論文の内容は、知的障害を伴う自閉症スペクトラムの発生率と併存症を明らかにし、今後の自閉症スペクトラムの治療や支援の発展に寄与するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。